

第 2 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会における主な意見

1. 学識委員

- ・「文化・芸術」をどう捉えるかという議論が必要。今あるものを活かすだけでなく、まちにあるものも含めて、その幅をひろげていくということではないか。
- ・上野公園は、道路により周辺地域と分断されているとともに、公園内の各施設が柵によって細かく区画されている。道路が人中心のみちになり、各施設の柵がなくなることで、上野公園とその周辺の一体感が出て、まちとのつながりが強くなる。
- ・日本が一番激動した幕末から戦災復興にかけての 100 年間（1850 年～1950 年）に、上野はあらゆる局面で中心であり、非常に重要な歴史資産を有している。山からまちについて、この歴史を一体的に、海外インバウンドに向けてわかりやすく提示できれば、回遊性向上につながる。
- ・山の文化・芸術の拠点だけでなく、まちの文化が両立していることが上野の魅力。まちの賑わい、活気、まちの中での活動が、時を経て伝統や守るべき文化になっていく。そういうまちを上野で実現していく、というニュアンスを伝えたい。

2. 区民委員

- ・上野のまちに何回来ても楽しめるような、リピーターを増やすための議論をまちづくり部会で行いたい。
- ・外国人来訪者にとって、上野が初めての日本であり、日本の第一印象を与えるという点から、上野は玄関口として、非常にきれいでなければいけない。
また、上野が持つ歴史性、文化性、伝統を維持しながら再開発してほしい。
- ・これまでも、山とまちがいろいろな形で交流していこうと議論があったにも拘わらず、それが実現できていないため、文化交流などを通じて、お互いの交流を実現したい。

3. 関係機関（国）オブザーバー

- ・これから上野に移住してくる人や上野に来て活動する人など、旅行者も含めて、これまで想定していなかった人をどう受け入れていくかという視点が重要。